

国道289号「甲子道路」全線開通



国道289号は、新潟県新潟市を起点とし、福島県いわき市に至る幹線道路であり、県内においては、「南会津～白河～いわき」をつなぐ県南部の大動脈です。しかし、日本海と太平洋の分水嶺となっている奥羽山脈の急峻な地形を横断しているため、下郷町と西郷村の間は、険しい甲子峠に阻まれ自動車通行が不能となっておりました。



旧国道

甲子峠が利用され始めたのは、江戸時代からと古く、当時は会津で育てた馬を日本三大馬市としてにぎわった白河へ運ぶため、多くの人々の往来がありました。

白河での馬市は昭和36年まで続いたと言われており、物流・文化など地域間の交流も盛んでありましたが、明治維新以降、鉄道や車などが発達するにつれ、険しい峠道は次第に往来が少なくなり、下郷と西郷の両地域は近くて遠い存在となってしまいました。

このため、県では交通不能区間の解消を目的に、昭和五十年、甲子道路の整備に着手しました。標高1,549mの甲子山を貫通する「甲子トンネル」や阿武隈川をまたぐ「甲子大橋」などについては、地形が険しく高度な技術が必要なことから、国土交通省とも連携し、地元の方々にも協力や応援をいただきながら鋭意整備を進め、9月21日(日)開通することが出来ました。



甲子トンネル



南倉沢バイパス

今後は、年間を通して安全・安心な通行が可能となり両地域の交流・連携が促進され、活力や魅力ある地域としてさらに飛躍していくことが期待されます。さらには、日本海から太平洋、また関東地方から県南・会津を経由し北陸地方までの広域ネットワークが形成されたことにより、広域的な交流、物流がより一層、促進されることが期待されます。

